

10月19日(月)

マリヤに与えられた契約

聖書朗読 ルカ 1：26～38

神にはどんなことでもできます。

マタイ 19：26

年老いたサラにアブラハムが、息子が与えられることを告げると、サラは笑いました。そこで神は仰せられました。「なぜサラは笑ったのか。私にできないことがあるのか」と。

エレミヤは、すべての土地が、叔父ハナムエルの所有する畑も含め、カルデヤ人の手に渡され破壊されることを告げられました。神がエレミヤに、叔父の畑を買うよう仰せられたとき、エレミヤは、神の言われるとおりに、証人らの前でその畑を購入し、証書を器の中に保管しました。それから彼は、「なぜか」と神に尋ねるのですが、やがて来る時代は、剣と飢饉と疫病の時となるだろうが、神はその民をこの破壊された土地と神のもとに連れ戻し、繁栄を回復してくださるのだらうと考えます。エレミヤの姿勢は、神の御力とご計画に対する確信を表すものでした。聖書にはこうあります。「わたしは、すべての肉なる者の神、主である。私にとってできないことが一つでもあろうか。」

御使いガブリエルがマリヤのもとへやって来て、イエス様の受胎について告げた時、マリヤは「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知らないのに」と尋ねるのですが、それに対する神の答えは、アブラハムやエレミヤに与えられたものと同じでした。「神にとって不可能なことは一つもありません。」

神がそのご計画により私たちを選ばれるとき、不可能と思われる事すべてを可能としてくださるのです。神は私たちを救うことの出来るお方なのです。

讚美歌 284

祈り 親愛なる主よ。あなた様によって困難なものは何一つないことを褒め称えます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジェーン・アン・トーマス

メリーランド州 シルバースプリング

今日のカ

2015年10月19日～10月25日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月20日(火)

あなたを挫くもの

聖書朗読 ルカ 5:17~26

ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

ヘブル 4:16

スポーツクラブの会員になり会費を払うというのは、よい投資だと思われるでしょう。その投資は、年の初めには大変な人気で、多くの人が身体の不調を改善したいと、クラブに入会するものです。けれども、残念ながら、クラブに長く行き続ける人は、そう多くはないのではと思われます。

健康に関する商品が世に溢れ、私たちは健康になるため、また、健康維持のために最新の商品を探そうとします。けれども、結局は、広告に書かれているほどの効果はないことを知らされるのではないのでしょうか。

どんなに運動しても、薬やサプリメントを摂取しても、私たちが必要とする、真の命は得ることはできません。それを得させてくださるのは、イエス様だけなのです。

無力であることを知り、望みも絶望的な状況になって初めて、私たちがイエス様を必要としていることに気付かされるものです。私たちが真に必要としているものは、イエス様との関わりを通してのみ満たされます。私たち自身を取り戻し、真に生きることが出来るようにして下さるお方は、イエス様だけなのです。

足を引きずるように人生を歩んでいるとき、行動的に動いてみても、金銭的に豊かになっても、友人が多く与えられても、心が癒されるものではありません。癒しには、イエス様と日々ともに歩むことが必要なのです。

みことばを聞き、祈りを持ってイエス様に近づきましょう。イエス様は必ずあなたを取り戻して下さいます。

讃美歌 525

祈り お父様。今日も、あなた様のご臨在と愛を覚えて過ごさせてください。どうか助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マイケル・A・ブラウン
アラバマ州 ハンツビル

10月21日(水)

過度な期待の危険

聖書朗読 ルカ 7:18~28

私たちはなおほかのお方を待つべきでしょうか。

ルカ 7:20

期待とはこんなものではないのでしょうか。レストランが新しくできた、あるいは、絶賛されている映画があったので、実際に行ってみたのですが、「期待していたほどのこともなかった。」期待がそれほど大きくなければ、落胆もそれほど大きくはないでしょう。

私たちの霊的な歩みはいかがでしょうか。自分は神を信じる者なのだから、人生が直ちにスムーズになるという過度な期待を持つと、困難に遭った時に、その落胆も大きいのではないのでしょうか。正しい信仰を持っていれば、罪との葛藤も楽になると期待し過ぎると、誘惑に陥った時の危険も返って大きいかもしれません。あまりに期待が大きすぎると、返って自分が敗北者だと感じることも多いのではないのでしょうか。恐らく知らず知らずのうちに、自分自身を変えることなどできないと落ち込んで行き、信仰までも挫かれることとなります。そうすると、神が私たちを赦し喜びを与えてくださっているという恵みさえ、信じ難くなってきます。

そのようなとき、私は、恵みによって奮い立ち、やがて来るかもしれない困難を乗り越える力を与えられるどころか、自分自身に失望してしまいます。けれども、神も私にがっかりしておられるのだということに気付いて初めて、私は、自分の過剰な期待が、真の問題なのだということに気付かされます。

あなた自身の期待の程度について考えてみてください。過度な期待を抱かなくても、神の恵みは真実であり、十分なのです。

讃美歌 第二編 167

祈り すべての被造物の神よ。私の目を開いてあなた様の真理を見させてください。ただあなた様とあなた様の働かれる現実へののみ、期待を抱くことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジャック・ウィリアムソン

カリフォルニア州 サウザンドオーク

10月22日(木)

感謝を捧げる

聖書朗読 ルカ 17:11~19

主よ。私のくちびるを開いてください。そうすれば、私の口は、あなたの誉れを告げるでしょう。
詩篇 51:15

家族から離れ、普通の生活からも遮断されたツアラトに冒された人々。彼らにとって、いつか癒されるかもしれないという希望は、実際には叶わぬものであり、苦しみ的人生がせめて短かく終わることが、彼らが唯一期待できるものでした。人の身体が腐り機能なくなっていく様子は、見るに堪えないものだったに違いありません。10人のツアラトに冒された人々は、どんなにイエス様の癒しを求めていたことでしょうか。司祭らに自分を見せるようにというイエス様のおことばに従って司祭らの元へ行く途中、彼らは癒しを経験しました。自分の身体が癒され再び完全なものとなるのを見て、彼らがどれほど喜んだことか、想像してみてください。けれども、そのように新しく生まれ変わった命の喜びに満たされながら、主のもとへ感謝を捧げに戻ってきたのは、たった一人だけだったのです。

困難な時には、聖なる助けを呼び求めるのは自然なことですが、そのような助けを求める祈りに対する答えが与えられたとき、その称賛を受けるべきお方はどなたでしょうか。そのような感謝を捧げる特別なとき、神が私たちの魂を聖くしてくださったことへの感謝を捧げる場が、主の食卓です。

私たちは、神を褒め称え感謝を捧げるために、ツアラトから清められる経験をする必要はありません。感謝を捧げる事柄の中で、目が見え、耳が聞こえ、口がきけ、手も足も動かすことができること、与えられたいかなるものについても、当然と思うことがあってはなりません。何か大きな癒しの御業を待つのではなく、日々の歩みのあらゆる場で、神に感謝を捧げましょう。

感謝は、生きる道、
生きていることの証、
霊的な健康を測る指標である。

—————Wirt and Beckstrom

讃美歌 12

祈り 親愛なる神様、あなた様がこれまでに私たちの上に成してくださったあらゆる事柄を感謝します。私たちがいただくものすべてについて、あなた様を称え、私たちの歩みによって、あなた様を称えることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジェリー・ジョーンズ
ミズーリ州 セントルイス

10月23日(金)

他者の光を灯す者に

聖書朗読 ルカ 17:12~19

立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。

ルカ 17:19

アルベルト・シュバイツァーは、「自らの灯が消えてしまったとき、他の誰かの灯によって、再び火を灯すことがよくあるものだ」という言葉を残しています。

私は食糧を配給する慈善事業のボランティアをしています。そこでは、貧困のために、それこそ「ギリギリ」の生活をしている方々に接します。食糧配給所へやってくる方々の多くは、感謝して食糧を受け取ってくれるのですが、昨日のこと、ある女性がやってきたのですが、その女性はまさに「不平不満だらけの女性」でした。「ばい菌のついたそんな袋は嫌だわ」とか、「シリアルが硬すぎて噛めないわ」とか。そのシリアルは、無償で配給している牛乳に浸っていたはずなのですが。彼女はもともとそのように偏屈で不平不満ばかりの老人だったわけではないと思いますが、つらい状況に対して、いつも苦々しい思いを抱きながらやってきたのでしょうか。そのために、人として成長するのではなく、心が腐って行ってしまったのかもしれませんが。どのように生きるかは、私たちの選択なのです。

イエス様は、1世紀当時、ツアラトという病のために最低の生活を強いられていた10人の患者を癒されました。その10人のうち、イエス様の元へ唯一戻ってきた人について考えたのですが、その人は恐らく、ツアラトに罹ろうと罹るまいと、日々感謝の思いをもって生きていたのではないのでしょうか。イエス様の元へ感謝を捧げに戻ったのも、普段と変わらない日常なことだったのでしょうか。彼のような人こそ、アルベルト・シュバイツァーの言う、私たちの火を再び灯してくれる人となるに違いありません。

讃美歌 326

祈り 父よ。あなた様は、私たちの光であり、希望であり、また、癒し主であられます。どうか私たちも他の誰かの火を灯す存在とならせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ビル・アドコックス
オクラホマ州 ベサニー

10月24日(土)

祈っていますか

聖書朗読 ルカ 18:1~8

いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。 ルカ 18:1

祈っているだろうか。これは、疑いを込めた問いではなく、「感謝を持って、願い事を神に知っていただく(ピリピ4:6)」なら、神は喜んで、知恵と力と有用なものを与えてくださるのだということ、私たちに思い起こさせるためのものなのです。

祈りのために、会堂に集うこともできますし、祈りの交わりによっても恵みを受けますが、祈りは共同で行うというより、むしろ個人的な関わり、神と神を信ずる者との個人的な貴重な関わりではないかと思えます。もちろん教会はいつでも、祈りの教会でなければなりません。

祈りの人は、物事を成してくださる主と交わることを、生きて行く上で必要不可欠なものとしている人です。事の結末は神がなさることであり、私たちに求められていることは、ただひたすら信頼すること。ご聖霊は、日々の歩みのあらゆる場で働かれ、物質的な恵みを通して語られ、骨の折れる状況であっても、瘤に障るような人々に対しても、愛をもって忍んでくださり、あなた自身が知るありのままのあなたを信頼して下さり、また、あなたの辿る道が、目的によるものであり、決して偶然ではないことを示して下さいます。そのご聖霊こそが、なぜ祈るのかという問いに答えを示して下さるのです。

心の奥深くにある願いは、隠れたところに現れるもの

—————George E. Rees

讃美歌 314

祈り 父よ。愛する人々に愛を示す器としてくださることを信じて祈ります。
イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィリアム・E・ヤング
テキサス州 アビリン

10月25日(日)

思考の糧

聖書朗読 ルカ 21:29~38

人は自分の道はみな正しいと思う。
しかし主は人の心の値打ちをはかられる。 詩篇 21:2

皆さんもこのようなことはありませんか。スーパーへ行くと、お腹はすごくすいていっているものの、何を買ったらよいか分からない。何を買ったらよいか、そしてそれがいくらになるのかを考えながら、生鮮食品売り場をうろろして、旬の野菜や果物を見て回ります。スーパーに置いてあるメロンを測る秤を使ったことがありますか。その秤で測った分量がお会計で支払う金額となります。

この世には、有形・無形の様々な物があります。あるものは、物理的に測ることが出来ますが、そうでないものもあります。私たちが自分の体重を測ります。医者にも測ってもらったことなせかもっと重いのですが、あまり自分では体重が重いと認めたくないものですね。食料品スーパーへ行くと、何を買おうか、果物か野菜か、それとも、身体にあまり良くないスナック菓子かを選択をします。人生においても同じように様々な選択がありますが、その選択をする上で、栄養のあるものなのか、体に良くないものなのかを測り比べる過程がともないます。

今度食料品スーパーへ行ったら、何をどのくらい買ったらいくらになるのか考えながら、買い物をしてみてください。そして、あなた自身のことについて考えて、あなたの霊を健やかにするものであれば、どんなに重くのしかかってくるようなことでも、避けることがないようにしてください。

私たちは、愛するお方に似た者へと成長すべきである。

—————Bernard of Clairvaux

讃美歌 452

祈り お父様。賢い選択をする知恵と勇気をお与えくださり、感謝します。あらゆる決断においてどうか私たちに助けてください。
イエス様のお名前によって。アーメン。

カーサ・ウィンザー
カリフォルニア州 サンディエゴ